

「2022北九州SDGs未来都市アワード」  
活動概要及び選考委員による評価

【市民部門】

賞の種類	活動名	活動概要	選考委員による評価
SDGs大賞	普通科SDGs探究活動 「夢現∞プロジェクト」	SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴って生じる課題に着目し、将来の国際社会及び日本社会における課題の発見・解決に資する知識・技能の習得と、その活用に関わる思考力・判断力・表現力を育成しながら実践につなげている。	学校全体でSDGsの幅広い取り組みを行い、成果発表会の審査員に企業や行政等、多様な分野から地域の方々を迎えて指導・助言を頂くなど、コンソーシアムを最大限活用している。多様な方々が参加するコンソーシアムは、SDGsのモデルとなる。
	福岡県立八幡高等学校	総合的な探求の時間を活用して、SDGs実現のための行動計画を策定し、講演会、取材活動、協議・座談会、実践、成果発表会を実施している。	探求テーマとゴールが1対1にとどまっているので、複合的な視点を涵養（かんよう）していく必要がある。また、北九州市としての特色をより明確にしていきたい。
ESD賞	SDGsと社会貢献の根っこを 育てる ～誰一人残さずできること～	賛同する企業や家族と手をつなぎ、社会貢献の輪が広がるように、使い捨てカイロ・子ども服の回収やフェアトレード商品の使用など、さまざまな取り組みを行っている。	多彩な視点から保育現場にSDGsを導入し、地域の企業・団体との協働の連鎖や広がりが生まれている。0～2歳児とその家族で取り組める内容を企業と連携し、子ども達がキャップ・衣類・カイロの回収を行っており、目標の「小さい時から社会貢献が当たり前」が実現されている。
	キッズ・キッズ保育園	また、子ども達との地域緑化活動を充実させ、20年後、30年後も次世代につながる環境作りを行っている。	今後、協働による活動の広がりや質の向上を図り、子どもの成長にこれらの取り組みがどう反映しているか、その道筋と効果を明らかにしていきたい。

「2022北九州SDGs未来都市アワード」  
活動概要及び選考委員による評価

【市民部門】

賞の種類	活動名	活動概要	選考委員による評価
ESD賞	<p>戸畑高校フードロス削減プロジェクト ～もったいないを ありがとうございます～</p>	<p>企業における1/3ルールや余剰食品の存在を知り、生徒自らフードロス削減プロジェクトチームを立ち上げ、校内でフードパントリーを実施したり、地域の子ども食堂でボランティアをしたりすることで、フードロス削減につながる活動を行っている。</p>	<p>生徒のリーダーシップによるフードロス削減に向けた効果的なプログラムが実施されている。さらに、生徒数名から立ち上げたプロジェクトチームから、多くの生徒を巻き込む活動に発展させている。また、食に文房具を加えた点は、学校での活動のモデルとなる。</p> <p>地元の企業や商店などとも連携し、協働団体を増やすと良い。</p>
	<p>福岡県立戸畑高等学校 家庭クラブ</p>	<p>令和4年度文化祭でのフードパントリーでは、100kg以上の余剰食品を396人の生徒が家庭に持ち帰り、消費することができている。</p>	
SDGs賞	<p>だれひとり取り残さない まちづくり 「たかす元気プラン」の推進</p>	<p>少子高齢社会で、誰一人取り残さないことを目的とした「たかす元気プラン」を策定し、行政や大学、地元企業等と連携しながらSDGsの精神で活動している。</p>	<p>地区の元気プランが策定され、それに基づいて高齢者・障害者世帯に対する充実したサポートが展開され、住民すべてがSDGsに向かっている。地域福祉を高める協働型の工夫が多くみられる。</p> <p>4つの目標をつなぐ横断的な構造や活動があると良い。また、元気プランから環境問題などSDGsそのものにも照射し、目標達成に向けて取り組みを深化・拡充してもらいたい。</p>
	<p>高須地区社会福祉協議会</p>	<p>具体的な取り組みとしては、認知症行方不明者捜索模擬訓練、小学校等と連携してごみゼロ活動、食品ロスとフードドライブ、男女共同参画社会とジェンダー平等学習などを実施している。</p>	

「2022北九州SDGs未来都市アワード」  
活動概要及び選考委員による評価

【市民部門】

賞の種類	活動名	活動概要	選考委員による評価
SDGs賞	カブトガニの棲む海を未来に！ ～ カブトガニとカブトガニの棲む 海の未来を変える挑戦 ～	<p>生きた化石と言われ絶滅危惧種のカブトガニと、カブトガニが棲む海・干潟を、地域をはじめとする、より多くの市民と連携しながら、北九州の宝として次世代に残すための活動を行っている。「調査・研究」を基盤に現状を把握し、普及・啓発、保全・保護の活動に取り組んでいる。</p> <p>また、「できる人が、できる時に、できる事を」をモットーに、地域住民と協働しながら取り組んでいる。</p>	<p>新たに専門的な協働団体・組織と組んだことは、研究レベルにおいて新しい知見の蓄積と人材育成に貢献している。また、曾根干潟の重要性を学術的なものとして発信している。</p> <p>過去に本アワードを受賞した地元小学校とさらなる連携ができれば面白い。曾根干潟そのものの環境保全にかかる取り組みへと発展してもらいたい。</p>
	日本カブトガニを守る会 福岡支部		
SDGs賞	くきのうみ こどもフードパントリー	<p>活動場所にさまざまな経緯で集まった食品や品々を、みんなでシェアする活動を行っている。子どもたちとの毎日の活動を、「おもちより」「わけあえば たりる」「ないならないで ないなりに」「もったいないを みんなでシェア」をモットーとしている。</p> <p>子育て家庭中心に食品を預かり、手渡す活動をし、一般市民にも可能な範囲でシェア、参加をお願いしながら継続している。</p>	<p>多彩な組織・団体との連携のもと、持続可能な社会づくりに「食」からアプローチし、人材育成にもつなげている。コロナ禍でも工夫をして、頻度を保った継続的な活動をし、「遊び」「学び」を媒介にした活動を展開している。</p> <p>活動を数値で示す部分（実施回数、提供食材の概算量、届け先個所数など）が増えると良い。今後、ソーシャルビジネスとしてのモデルを確立され、普及啓発に努めてもらいたい。</p>
	特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所		

「2022北九州SDGs未来都市アワード」  
活動概要及び選考委員による評価

【市民部門】

賞の種類	活動名	活動概要	選考委員による評価
SDGs賞	ロシナンテスと共に学ぶ SDGs講座	<p>学校法人鎮西敬愛学園 敬愛小学校の6年生及び北九州市立高校の3年生を対象に、北九州市内における持続可能な社会を構築するための、人財教育・育成を目的として、「ロシナンテスと共に学ぶSDGs講座」を実施している。</p>	<p>自らの団体の活動を踏まえ、その経験知を活かした活動を学校現場で展開しており、国際NGOのノウハウを地域へと還元・交流するモデルとなっている。また、実践型（現地の水を浄水するため、自分でろ過器を作るなど）の探求学習を提供している。</p> <p>参加者の具体的な意識や行動の変化を今後見てみたい。また、連携先を拡大し、SDGsの王道を追求してもらいたい。</p>
	特定非営利活動法人 ロシナンテス	<p>児童や学生は、探究学習の教材として活用し、「自分達ならどのような持続可能性を生み出せるか」を考え、発表している。</p>	